

アスランの言動にみられるC. S. ルイスの抱く神の属性

—『魔術師のおい』を中心に—

高橋 清隆

日本大学大学院総合社会情報研究科

C. S. Lewis's Idea of God Seen in Aslan's Speech and Behavior

— Chiefly on *The Magician's Nephew* in *The Chronicles of Narnia*—

TAKAHASHI Kiyotaka

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

The purpose of this paper is to argue that C. S. Lewis's concept of God lies in "*The Magician's Nephew*". In the story, Aslan, as the creator of Narnia, gave the ability to speak to animals which were chosen from unspeakable animals at the beginning of Narnia. By means of it, they were able to behave intellectually and reasonably. I focus on the incident and will explain how Aslan shows the natures of God.

1.はじめに

C. S. ルイス (Clive Staples Lewis, 1898-1963) はキリスト教弁証家であるとともに、20 世紀を代表するファンタジー『ナルニア国年代記物語』全七巻の作者でもある。本稿では出版順でその第六作目の『魔術師のおい』(*The Magician's Nephew*) に描かれているナルニアの創造に注目し、アスランの言動から見て取れる神の属性を検証することである¹。

2.アスランとは誰か

まず、アスランとは誰かについて提示しておくべきだろう。アスランの名はアラビアンナイトから取られ、トルコ語でライオンを意味する²。その理由でルイスが描くアスランもライオンの姿をしている。しかし、ただのライオンではない。ルイスはアスランが「ユダ族のライオン」を意味すると言う³。「ユ

ダ族のライオン」という表現は聖書の「ヨハネの黙示録」(5:5)に見られ、この称号はイエス・キリストに冠せられるとキリスト者は考えている⁴。では、アスランはキリストそのものなのであろうか。この点に関し、ルイスがある学校の5年生のクラスに宛てた手紙に注目してみよう。

I did not say to myself "Let us represent Jesus as He really is in our world by a Lion in Narnia": I said "Let us *suppose* that there were a land like Narnia and that the Son of God, as He became a Man in our world, became a Lion there, and then imagine what would happen." If you think about it, you will see that it is quite a different things⁵.

三位一体の第二格である、子なる神が地上で人間として受肉したように、ナルニアではライオンとして受肉したらどうなるだろうか、とルイスは仮定する。もしそうであるなら、キリストの地上での言動

¹ なお、本稿において聖書からの引用は、日本語訳は日本聖書協会の新共同訳を用いることにし、『魔術師のおい』からの引用は *The Magician's Nephew* (Harper Collins Publishers, 2002)を用い、引用末尾に英語の略述名 MN とページ数を表記することとする。

² Mead, Dorset and Lamp: *C.S. Lewis: Letters to Children*, Touchstone, 1985, p.29.

³ Ibid., p.29.

⁴ ゲルハルト・フリードリヒ『NTD 新約聖書註解 ヨハネの黙示録』ATD・NTD 聖書註解刊行会、1973、p.80。

⁵ Mead, Dorset and Lamp: *C.S. Lewis: Letters to Children*, Touchstone, 1985, pp.44-45.

とは別のことが見えてくるだろう。そこで、本稿はイエス・キリストの地上での言動と全く同様の言動をアスランがナルニアで行なったことに注目するのではなく、アスランが神としての特質をどのように各々の場面で表しているのかに焦点を合わせる。

3.『魔術師のおい』のあらすじ

ここで、『魔術師のおい』のあらすじを見てみよう。

ロンドンに住むディゴリーは、重篤な病で伏せる母親を持つ。ある日、彼は些細なことから隣に住む女の子ポリーと仲良くなる。二人は屋根裏の探検をしようと話し合い実行に移すが、ディゴリーの伯父であるアンドルーの実験室に迷い込んでしまう。彼らは、狡猾な伯父の作った魔法の指輪により、別の世界につながる「世界と世界の間の林」に送られてしまう。二人は元の世界に戻ろうとするが、行った先は滅びた世界であるチャーンであった。彼らは歴代の王たちが眠る宮殿に入るが、ディゴリーの好奇心により、最後の悪い女王ジェイディスを目覚めさせてしまう。二人がロンドンに戻るとき、偶然にもジェイディスがついてきてしまう。彼女はロンドンで大騒動を引き起こす。二人はジェイディスをチャーンに連れ戻そうとするが、今度は彼らと共にアンドルー伯父や馬車屋と彼の馬が巻き込まれる。彼らが着いた場所は、暗闇に包まれていた。

やがて、ディゴリー、ポリー、馬車屋、そして馬にとっても今まで聞いたこともない不思議な美しい歌声が聞こえてくる。しかし、それはジェイディスやアンドルーにとっては忌々しいものだった。その正体はアスランの歌声によるナルニアの創造であった。木々や草花、動物たちが創造された。その後、ある動物たちは言語能力が与えられた。ディゴリーはアスランなら母親の病気を治せるかもしれないと思うのだが、創造が終わったアスランは、ディゴリーに罪の償いを求める。その罪とは、ナルニアができたその日に、悪であるジェイディスをナルニアに引き入れてしまったことである。償う方法は遠い西の荒野の山々を越えた先にある、青い湖のある果樹園に行ってリンゴを一つアスランの元に持って来ることだった。ディゴリーは西の園でのジェイディスの誘惑に打ち克ち、アスランの元にリンゴを持って

くることに成功する。アスランはその褒美としてリンゴの種から成長した実をディゴリーの母親に食べさせるように言う。ディゴリーはポリーと共にロンドンに戻り、母親にその実を食べさせる。その実を食べた母親は病気が回復する。そしてリンゴの芯を裏庭に埋める。裏庭に埋められたリンゴの芯は立派なリンゴの木に育ったが、ある日、嵐によって倒れてしまう。ディゴリーはその木から衣装ダンスを作るが、それが後日、ナルニアへの入り口となるのである。

4.アスランの神としての性質

4.1 音楽を用いての創造から

ナルニアを創造するに際して、アスランは音楽と歌を用いる。まず、アスランが歌う歌をディゴリーがどのように感じたか見てみよう。

There were no words. There was hardly even a tune. But it was, beyond comparison, the most beautiful noise he had ever heard. It was so beautiful he could hardly bear it.

(MN p.106)

アスランが創造に際して用いた音楽はディゴリーが今まで聞いたことがないくらい美しく、畏怖の念を抱かせるものであった。この耐えがたい美しさはこれから創造されるナルニアという場所が機能的なところだけでなく、美的なものになることを示唆している。この芸術的とも言えるナルニアの創造は聖書の次の言葉と一致する。

神はお造りになった全てのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

(創世記 1:31)

聖書の神は自分の創造を見た結果、その全てを「良し」とした。つまり全てが善であり、芸術的であった。それは聖書の神が善と美の究極的な源であることの証左であろう。聖書の神と同様にアスランも美の究極的な源なのである。

さて、その次に二つの不思議なことが同時に起こる。それを見てみよう。

Then two wonders happened at the same moment. One was that the voices was suddenly joined by other voices; more voices than you could possibly count. They were in harmony with it, but far higher up the scale: cold, tingling, silvery voices. The second wonder was that the blackness overhead, all at once, was blazing stars.

(MN p.107)

アスランの歌に星々が加わり壮大な創造のシンフォニーが開始される。アスランの歌を用いた創造は続く。その様子をポリーがどのように感じ取ったのか見てみよう。

Polly was finding the song more and more interesting because she thought she was beginning to see the connection between the music and the things that were happening. When a line of dark firs sprang up on a ridge about a hundred yards away she felt that they were connected with a series of deep, prolonged tones which the Lion had sung a second before. And when he burst into a rapid series of lighter notes she was not surprised to see primroses suddenly appearing in every direction. Thus, with an unspeakable thrill, she felt quite certain that all the things were coming (as she said) “out of the Lion’s head”

(MN p.115)

アスランの歌と創造物は深いつながりがある。深く、長い調子の歌の後にはモミの木が現れ、早い調子の歌の後には、サクラソウがあちこちに突然現れる。ポリーの言葉を借りれば、それら被造物はあたかもアスランの頭のから出てきたように感じられる。アスランの歌は美的なものだけでなく想像力を駆使した知的なものでもある。

では、なぜルイスはナルニアの創造に際して音楽を用いたのだろうか。まず、キリスト教作家がファ

ンタジーにおいて、音楽を用いての創造を描くことは珍しくないという事実がある。例えば、同じキリスト教徒作家である J.R.R. トールキンの代表的ファンタジー『指輪物語』では、最高神イルーヴァタールが壮大な歌や力強いシンフォニーを用いて「中つ国」を創造する⁶。

第二に、創造と音楽を関連付けることは聖書的でもある。それをヨブ記から見てみよう。

わたしが大地を据えたとき
お前はどこにいたのか。
知っていたというなら
理解していることを言ってみよ。
誰がその広がりを選んだかを知っているのか。
誰がその上に測り縄を張ったのか。
基の柱はどこに沈められたのか。
誰が隅の親石を置いたのか。
そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い
神の子らは皆、喜びの声をあげた。

(ヨブ記 38:4-7)

まさしくルイスが描いたナルニアの創造と同様に星々が神の創造の業を歌で讃える様子がここで描かれている。

Ryken は創世記の創造物語には詩的、そして音楽的側面があるとの見解を持つ⁷。同様にルイスもナルニアの創造を音楽と関連付ける。これによりルイスはアスランの芸術性と想像性の両方の性質を描出しているのである。

4.2 動物たちに言葉を与えたことから

アスランは全てを創造した後、ある種の動物たちから二組ずつを選出し以下のように言う。

“Narnia, Narnia, Narnia, awake. Love. Think. Speak. Be walking trees. Be talking beasts. Be divine waters.”

⁶ ラルフ C. ウッド『トールキンによる福音書』日本キリスト教団出版局、2006、p.69。

⁷ Ryken, Leland: *Dictionary of Biblical Imagery*, Inter Varsity Press, 1998, p.902.

(MN p.126)

アスランは選出された動物たちを祝福する。そして彼らに言語能力を与える。彼らは今やただの動物ではなく“talking beasts”になったのである。

では、アスランの祝福に対するものという動物たちの応答を見てみよう。

“Hail, Aslan. We hear and obey. We are awake. We love. We think. We speak. We know.”

(MN p.127)

彼らはアスランを褒め称える。その理由は何であろうか。ここで、ある実験を通して彼らとものいわぬ動物との違いを見てみよう。その実験とは、一匹のチンパンジーをある装置が備え付けられている檻に入れた時の知的反応を見るものである。装置には、赤の色彩板が出た時にレバーを押せばその色彩板は消え、一定時間が経って餌が出てくるが、緑の色彩板が出た時にレバーを押しても餌が出ない仕掛けがしてある。赤の色彩板が消えて餌が出てくるまでの時間を 4、5 秒に設定しておく、チンパンジーは何回かの試行錯誤の後、その仕組みを覚え、容易に餌を得ることができる。しかし、色彩板が消えて餌が出てくるまでの時間を 4、5 秒よりも長くすると、何回繰り返しても決して覚えることができない⁸。言葉を理解できるなら、何色の色彩板が出たら餌が出てくるのか記憶し、または、文字に書き表すことができるだろう。つまり、ものいう動物はただ鸚鵡のように繰り返し喋るのではなく、意味を解し、記憶に留め、記憶した情報を自由に取り出し、考え、応用することができる能力を身に付けたのである。それゆえにアスランは褒め称えられるのである。確かに、ものいう動物たちはアスランを賛美した後に言語活動に深い関わりのある聞くこと、目覚めること、愛すること、語ること、知ることをすると宣言し、その通りになるのである。これはアスランから与えられた大きな祝福であろう。

さて次に、それらものいう動物たちに対して、ア

スランは “Creatures, I give you yourselves,” (MN p.128) と言う。動物たちはその本来の性質に従って生きるということである。続いてアスランは彼らに忠告を与える。それに注目してみよう。

“For out of them you were taken and into them you can return. Do not so.”

“No, Aslan, we won’t, we won’t,” said everyone. (MN p.128.)

アスランは、ものいう動物がものいわぬ動物に後戻りする可能性を示唆する。しかし、彼らは、we won’t, we won’t と二回言うことにより後戻りはしたくないとの意思表示をする。この二回言うことには何か意味があるのだろうか。この点に関する Ryken の意見は興味深いので見てみよう。

In many ways two encompasses the basic structure of all relationships, such as love or hatred, prosperity or deprivation, obedient or disobedient of God⁹.

数字の 2 には、神に従うか従わないかなども含め、すべての基本的構築関係を含むとの見解である。これによれば、ものいう動物が二回拒否表示をしたことは、アスランの造り主としての“Do not so”という忠告に堅く従う意志の表れと取れるのである。

また、彼らものいう動物たちの意志表示が、アスランによる詐欺や脅迫による瑕疵があるものではないことにも注目したい。つまり、アスランは彼らの自由意志を尊重しているのである。このことに関し、馬車屋に対する接し方やディゴリーに対する接し方についても同様の対応が見られる。まず、馬車屋に対してであるが、アスランは馬車屋にナルニアの最初の王になるように告げると同時に、王としての役割に関しても触れる。その際に、馬車屋にものいう動物たちや、自分の子孫に対して親切に公平に扱ってくれるかと頼む。つまり、馬車屋に選択の余地を

⁸ 祖父江孝男『文化人類学入門』中公新書、1994、p.37。

⁹ Ryken, Leland: *Dictionary of Biblical Imagery*, Inter Varsity Press, 1998, p.902.

与えるのである(MN p.151)。ディゴリーに関しても、悪であるジェイディスをナルニアに引き入れてしまった罪の償いを求める時、進んで償いをするかどうかの意志確認をする(MN p.153)。

では、ルイスは神が人間に自由意志を与えた理由をどのように考えているのだろうか。

Why, then, did God give them free will? Because free will, though it makes evil possible, is also the only thing that makes possible any love or goodness or joy worth having. A world of automata—of creatures that worked like machines—would hardly be worth creating. The happiness which God designs for His higher creatures is the happiness of being freely, voluntarily united to Him and to each other in an ecstasy of love and delight compared with which the most rapturous love between a man and a woman on this earth is mere milk and water. And for that they must be free¹⁰.

ルイスは、神が人間に自由意志を与えた理由を、持つに値する愛や善や喜びを可能にする唯一のものだからとする。ルイスは、神が人間に幸福になって欲しいと願っており、自由意志を用いて神と結びつくことが最高度の幸福であると考えているのである。つまり、ルイスにとって聖書の神は幸福の源なのである。

このことをナルニアに当てはめてみよう。アスランはものいう動物たちに自由意志を与え、なおかつ、それを使う機会を与えた。彼らはその機会を首尾よく捉え、自らアスランに従うとの意志を示した。それは、これから始まるナルニアでの彼らの幸福が、自らの意志でアスランと結びつくことに依存しており、その幸福こそが何物にも変えがたい恍惚的愛と喜びをもたらすことを示しているのである。

4.3 最初の「笑い」から

ものいう動物の後戻りはしないとの自由意思によ

る固い決意の後、ナルニアで最初の笑いが起こる。その場面を見てみよう。

But one perky jackdaw added in a loud voice, “No fear!” and everyone else had finished just before he said it so that his words came out quite clear in a dead silence; and perhaps you have found out how awful that can be – say, at a party. The Jackdaw became so embarrassed that it hid its head under its wing as if it were going to sleep. And all the other animals began making various queer noises which are their ways of laughing and which, of course, no one has ever heard in our world. They tried at first to repress it,

(MN pp.128-129)

アスランの最初の忠告と、それに対するものいう動物たちの応答の場はとても厳格で神聖なものだった。しかし、コクマルガラスの“No fear!”という発話はその雰囲気打ち破った。一般的にコクマルガラスは鳴き声が喧しく、飼い慣らすと人語を真似ることができると言われている¹¹。つまり、よく喋る習性がある。いうなれば、コクマルガラスはアスランが最初に宣言した通り、自分自身の性質に従ったのである。しかし、この度のコクマルガラスの発言は滑稽だった。ものいう動物たちは笑いを堪えた。なぜコクマルガラスの発話は笑いを誘ったのだろうか。その理由としてベルクソンは、「演説が最も感動的なところに差し掛かった時にくしゃみをする弁論家を人はなぜ笑うのか」と問い、その答えを、人々の注意が心から身体へ急に引き戻されたからだと言う¹²。つまり、コクマルガラスの発話により、アスランとの誓いを交わしたという最も精神が高揚し、緊張が要求された場の余韻が漂う只中にあったものいう動物たちの心が、突如、身体的に引き戻されたのである。その結果、笑いが起こったのである。コクマルガラスもその状況を十分に承知してか、恥ずかしさのあまり自分の顔を羽で隠す。では、アスランがこ

¹⁰ C. S. Lewis, *Mere Christianity*, HarperCollins Publishers, 1952, p.48

¹¹ 『研究社新英和大辞典第五版』研究社、1980、p.1127。

¹² ベルクソン『笑い』光文社、2016、p.79。

の状況にどのように対応するのか見てみよう。

but Aslan said:

“Laugh and fear not, creatures. Now that you are no longer dumb and witless, you need not always be grave. For jokes as well as justice come in with speech.”

So they all let themselves go. And there was such merriment that the Jackdaw himself plucked up courage again and perched on the cad-horse’s head, between its ears, clapping its wings, and said:

“Aslan! Aslan! Have I made the first joke? Will everybody always be told how I made the first joke?”

(MN p.129)

アスランは動物たちに「笑え」と言う。もし、ここでアスランが厳格な場を打ち壊したコクマルガラスを叱責するという否定的な態度をとったならどうなったであろうか。コクマルガラスはアスランの宣言通り自分の性質に従ったにも拘らず叱責されることになる。その状況は彼に危険なストレスを与えるものとなるだろう¹³。しかし、アスランの対応は、ものいう動物たちに喋ることに関連付けられている「笑い」を用いる、ということだった。つまり、アスランはその状況を肯定的に捉えたのである。ものいう動物たちは笑った。その結果、恥じ入っていたコクマルガラスは元気を取り戻したのである。そして、コクマルガラスは自分が最初のジョークを言った者としてナルニアの子孫たちに憶えられるのか、とアスランに質問する。自分の言ったことを肯定的に捉え期待を膨らませながらアスランに質問するまでになったのである。このことは「笑い」には癒しの力があると同時に¹⁴、人を積極的にする効力もあることの証左であろう¹⁵。

では、コクマルガラスの問いにアスランがどのように応答するのか見てみよう。

“No little friend,” said the Lion. “You have not made first joke; you have only *been* the first joke.”

Then everyone laughed more than ever;

(MN p.129)

コクマルガラスが笑いの種をまいたのではなく笑いのネタになったとアスランは言う。それを聞いたものいう動物たちは以前にも増して大笑いする。その理由はなんだろうか。アスランのジョークが面白かったことに加えてそのタイミングがあげられるだろう。「コヘレトの言葉」3章には、何事にも定められた「時」があり、そのうちの一つに「笑う時」に言及している。また、「コリントの信徒への手紙二」6:2には、神が「恵みの時」に願いを聞き、「救いの日」に助けを差し伸べることについて書かれている。神が行動する「時」は、早すぎも遅すぎもしないとの意見である。つまり、アスランは絶妙のタイミングで冗談を発したので大笑いが起きたと推測できるのである。

アスランのコクマルガラスに対する愛や気遣いは「笑い」を通して示され、それにより自分自身を取り戻したコクマルガラスは、ジョークを心から楽しむことで答えた¹⁶。神の愛と笑いは、私たちの人生の中で最も興奮し、予知不可能で、「今」というこの瞬間に、示され最大の効果をあげるが¹⁷、アスランの「笑い」にも同様の効果があることが見て取れるのである。

4.4 ものいう動物たちの善悪の観念から

アスランは悪がナルニアに入ったので議会を召集する。その際のものいう動物たちとのやり取りを見てみよう。

We must next take thought for keeping it safe. I will call some of you to my council. Come hither to me, you the chief Dwarf, and you the River-god,

¹³ リチャード・コート『笑いの神学』聖母の騎士社、1992、p.139。

¹⁴ 前掲書、p.21。

¹⁵ 前掲書、p.139。

¹⁶ Ford, Paul F: *Companion to Narnia*, HarperCollins, 1980, P.264.

¹⁷ リチャード・コート『笑いの神学』聖母の騎士社、1992、p.85。

and you Oak and the He-Owl, and both the Ravens and the Bull-Elephant. We must talk together. For though the world is not five hours old an evil has already entered it.”

The creatures he had named came forward and he turned away eastward with them. The others all began talking, saying things like “What did he say had entered the world? –A Neevil—What’s a Neevil? – No, he didn’t say a Neevil, he said a weevil – Well, what’s that?”

(MN p.130)

アスランはナルニアに悪(“evil”)が入った、と言う。しかし、ものいう動物たちは“evil”を“Neevil”や“weevil”と聞き間違える。つまり、“evil”という語を知らないのである。言葉を知らないことはその意味や概念も理解していないことになる。その証拠に、アンドルー伯父を“Neevil”(悪)であると勘違いしたもののいう動物たちは、アンドルー伯父を追い回し、自分たちで作った籠の中に彼を入れて、親切の限りを尽した挙句、最終的に彼を大変気に入ってしまう、「ブランデー」と名付けアスランの許しがあれば飼いたいとまで思うようになるからである(MN pp.138,182-184)。この場面は『魔術師のおい』に含まれる最も楽しいユーモアのうちの一つであろう。

さて、ここで、アスランが言う「悪」に目をむけてみよう。「悪」とはディゴリーが彼の過失によりチャーンから連れてきてしまったジェイディスのことである。彼女は、チャーン最後の、そして最悪の王女であり、ロンドンでも悪の限りを尽くす。つまり、悪の権化でもあるかのように描かれている。しかし、ここで疑問が生じる。『ナルニア国年代記物語』のテーマの一つとして善と悪の戦いがあるが¹⁸、ルイスは善しか存在しなかったナルニアに悪を入れることにより二元論的な善悪の戦いを描きたかったのであるか。

まず、ルイスが二元論をどのように捉えているか見てみよう。ルイスによる二元論の定義とは、神と

悪魔は両方とも永遠の昔から独立して存在し、お互いがお互いに対して自分の正当性を宇宙という戦場において永遠に主張することである¹⁹。善が善であるがゆえに正当性を主張するのは理解ができるが、悪が悪である故に正しいと主張することはあり得るのだろうか。ルイスはそのような人を見たことがないが、近い例として残酷を挙げる。しかし人が残酷になるケースはルイスが見たところ二つしかなく、一つは性的倒錯に起因するサディストでありもう一つは金や権力や安全を残酷な行為によって得ようとする場合である。ルイスは後者に関し、金や権力そのものは良いものであるが、間違った仕方を用いる場合に悪になると言う²⁰。つまり、悪は善が必要であり、それなくしては悪にさえなれないのである。そしてルイスは次のように結論する。

badness is only spoiled goodness²¹.

ルイスは、悪は腐った善であると言う。

では、ジェイディスの悪も腐った善なのであろうか。その答えを知るために、二つの出来事を見てみよう。まず、チャーンの宮殿が崩れ始めたときのジェイディスの態度である。彼女は慌てる様子もなくディゴリーとポリーに手を差し出し、そこから首尾よく逃げる。そのときのジェイディスに対するディゴリーの感想は次の様である。

“She’s wonderfully brave. And strong. She’s what I call a Queen! I do hope she’s going to tell us the story of this place.”

(MN p.61)

ディゴリーは彼女の勇気と強さを称えている。もちろん、称えられるほどの勇気と強さは良いものであろう。しかし、その良い特質も悪用される。次の場面を見てみよう。アスランの創造に際して、ディ

¹⁸ 竹野一雄『C.S.ルイスの世界 永遠の知恵と美』彩流社、1999、pp.220-221。

¹⁹ C. S. Lewis, *Mere Christianity*, HarperCollins Publishers, 1952, p.42.

²⁰ C. S. Lewis, *Mere Christianity*, HarperCollins Publishers, 1952, p.44.

²¹ Ibid., p.44.

ゴリーと馬車屋はライオンの姿をしているアスランが自分たちに近づいてくるので恐怖を感じる。しかし、ジェイディスは大胆にもライオンに近づきロンドンから持ってきた街灯を支えている鉄の棒をアスランの眉間を目掛け投げる。鉄の棒はアスランの眉間に命中するが、アスランを傷つけるまでには至らない。(MN p.116)。どんな手段を持ってしても悪は善を傷つけることはできないのである²²。この様に、彼女の勇気と強さは悪用されアスランを傷つけようとすることに使われるのである。これらのことはジェイディスの悪が腐った善であり、ルイスが二元論の観点から善悪の戦いを記してはいないことの証左となろう。

では、『魔術師のおい』における善と悪の対比は何を意味するのか。アスランがディゴリーに彼自身の罪を償うためにリンゴの実を取ってくるよう命令したことから見てみよう。このリンゴの木は魔法の木であり、ナルニアを悪から守り、また、その実には良い効果をもたらす不思議な力がある。ジェイディスは不正にその実を食べた。リンゴの効能は彼女に対してどのように働くのだろうか。ポリーに対するアスランの応答に注目しよう。

“Child,” he replied, “that is why all the rest are now a horror to her. That is what happens to those who pluck and eat fruits at the wrong time and in the wrong way. The fruit is good, but they loathe it ever after.”

(MN p.190)

リンゴの実の効能そのものは良いものであるが、ジェイディスは相応しくない時と仕方ですべてのそれを忌み嫌うとアスランは言う。それはどのような意味か。続くアスランの言葉に注目しよう。

“Things always work according to their nature. She has won her heart’s desire; she has unwearying strength and endless days like goddess. But length of days with an evil heart is only length of misery

and already she begins know it. All get what they want; they do not always like it.”

(MN p.190)

確かに、彼女は女神のような力と尽きない命を得ることができた。それはリンゴの効能だろう。しかし、リンゴの実を不正に食べた彼女は、命の限り忌まわしい心を抱いたまま生き、苦しみがそれだけ長引くことを悟るのである。女神のような力と尽きない力は良いものであるがそれを本来持っている良い特質として用いることができないのである。

では正当な方法でその実を食べるならどうなるのだろうか。そのことに関してアスランはディゴリーに次のように言う。

“That is what *would* have happened, child, with a stolen apple. It is not what will happen now. What I give you now will bring joy. It will not, in your world, give endless life, but it will heal. Go. Pluck her an apple from the Tree.”

(MN p.191)

リンゴの実はディゴリーの母親を治すであろうとアスランは言う。正しい方法で食べるなら喜びをもたらすのである。これは次の聖書の言葉と一致するだろう。

あなたの家に大小二つの升を置いてはならない。

あなたが全く正確な重りと全く正確な升を使うならば、あなたの神、主が与えられる土地で長く生きることができるが、

このようなことをし、不正を行う者をすべて、あなたの神、主はいとわれる。

(申命記 25:14-16)

不正な重りや升を使っても本来持っている「計る」という性質は失われないだろう。しかし神はその本質を善用することを願っており、その結果、神の祝福が臨み生命を保持することができるのである。同様にアスランも、正しい効能のあるものを不正に用

²² C. S. Lewis, *The Great Divorce*, Collins, 1987, p.111.

いることなく善用することによって得られる良い結果を心から願っている。それが人間の幸福につながるのである。

5.終わりに

アスランのナルニアの創造にあたっての言動から神の特質について見てきた。ナルニアの創造に際し音楽を用いたことは、アスランの芸術性と想像性の表れであった。言葉を動物たちに与えたことは彼らに自由意志と笑いをもたらした。自由意志は、ものいう動物たちに自らの意志でアスランに従い、アスランと結ばれることが幸福をもたらすことを悟らせた。笑いはものいう動物たちに活気を与えたと同時に、アスランが愛と気遣いの創造主であることを知らせた。また、ナルニア創造当初に悪がなかったことは、善悪の戦いに際し二元論を持ち出すことは偽りであることや、悪は腐った善であること、また、善を正しい方法で求めてこそ、被造物に真の幸福もたらすことを示した。また、これらアスランの特質を聖書と照らし合わせたことで、聖書の神も「芸術性」「想像力」「幸福」「愛」などの特質を持っていることを示すものであった。ルイスはファンタジーという文学形態を用いてキリストの性質とを持つアスランを登場させたが、それは子どもたちだけでなく大人たちにとってもアスランを通して聖書の神の特質を認識するのに大いに役立ち、そして何よりも聖書の神を身近に感じさせるのである。

(Received:September 30,2016)

(Issued in internet Edition:November 1,2016)